



# 金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

左上の写真はお馴染み石畳通りの街路灯です。本町から古町まで18基ありますが、よく見ると意外なほどに汚れています。あらためて考えてみると、定期的に掃除する仕組みが無いのですね。

## 高岡市が「歴史都市」 の年度内認定を目指す

地域の歴史や伝統を生かしたまちづくりを支援するための新たな法律として、歴史まちづくり法が平成20年11月に施行されています。

この法律に基づき「歴史都市」として国の認定を受けると、歴史的風致維持向上の事業に最大10年間にわたって補助金を受けることができます。市の計画案によると、重点区域として金屋町・山町筋・瑞龍寺などを含む「旧高岡町往来地区」と、勝興寺や吉久を含む「伏木地区」を設定しています。認定が実現すれば、金屋町と山町筋を結ぶ散策路の景観整備事業などが急速に進展するものと期待されます。

## ふれあいいいききサロン



10月11日、神妙寺さんにおいて、宮川町・古町・西町の旧金屋3町合同で、ふれあいいいききサロンを行いました。高齢者が地域で元気に暮らせるよう、憩いの場として、また地域での生活をお互いに支援しあう場として、自治会・婦人会・福祉活動員・食改委員・民生委員などがスタッフとなり行っているものです。今回は高岡奇術愛好会の方々の素晴らしいマジックに、拍手喝采でした。

## ママチャリラリーが金屋町へ

9月25日午後、第2回ツールド日本海ママチャリラリーの集団120人が、金屋西町の隈カフェでお茶休憩をし、静かに金屋町を走り抜けて行きました。



「裏日本」との呼称に甘んじてきた日本海側の地域間連携を図るのが狙いで、参加者どうしの会話や交流を深めてもらうために、親しみやすく、ゆっくりと進むママチャリを移動手段にしている。昨年からはじめたもので、総合プロデューサーは金屋町楽市でおなじみの富山大学教授 伊東順二さん。今回は金沢市から富山市までを走破した。

## 第30回金屋町鳳鳴グリーン会

10月3日、第30回金屋町鳳鳴グリーン会が開催された。いろいろなイベントが重なる時期であり参加人数はやや少なかったが、15周年の記念大会を楽しみました。



優勝の鍋谷さん

上位入賞は次のとおりでした。優勝：鍋谷五郎、準優勝：坪田芳紀、3位：般若慎一郎。

## 金屋の鉄釜が出雲へ出張します

9月30日、鑄物資料館へ島根県立出雲歴史博物館から学芸員が来訪しました。来年秋に島根県立出雲歴史博物館において出雲のたたら製鉄をテーマに企画展を開催するにあたり、塩釜とにしん釜を展示品として貸して欲しいということです。島根県は古来から安来市などが砂鉄の産地であり、鉄鑄物の原料を北前船に乗せて全国の鑄物産地へ出荷していましたが、伏木港を經由して高岡金屋町へも入っていたことの縁からです。なお金屋町まちづくり協議会では、3年前に先進地視察として石見銀山へ行った際に出雲歴史博物館も訪問しています。

## 鑄物資料館の収蔵品を国の文化財に

10月1日、鑄物資料館へ文化庁、富山県文化財課、高岡市文化財課から担当者が訪れ、2日間かけて収蔵品と台帳を突き合わせて棚卸しを行いました。これは収蔵品を国の登録有形民族文化財にするための準備作業です。なお文化財として申請するにあたり、その所有権が市など公的機関にある必要があるため、金屋町から高岡市へ収蔵品を寄贈する手続きをしました。

金屋町開町400年記念  
シリーズ  
金屋町と高岡鑄物の歴史

### ④鑄物の神様、 石凝姥命(いし こりどめのみこと)

石凝姥命(いしこりどめのみこと)は鑄物の神様として、高岡では金屋町の氏神様である有磯正八幡宮に、河内では鍋宮大明神に祀られています。石凝姥とは、石の鑄型を使って鏡を鑄造する老女の意味です。石凝姥命は天照大神(あまてらすおおみかみ)の兄弟神である天祓戸命(あめはらいのみこと)の娘で、三種の神器の一つで伊勢神宮の御神体である八咫(やた)の鏡を作りました。河内鑄物師の天明はその子孫で第81代であるとされます。

### 天の岩屋事件

神々が住む高天原(たかまがはら)において、須

佐之男命(すさのおのみこと)がとんでもない乱行をし、怒った天照大御神(あまてらすおおみかみ)が天岩屋(あめのいわや)に身を隠してしまった。太陽の神である天照大御神が隠れたものであたりは真っ暗になってしまい、夜ばかりの世界になってしまいました。困った神様達は、早く天照大御神に出てきてもらおうと相談をしました。



まず、長鳴き鳥を連れてきて「コケッコー」と鳴かせ朝を告げました。次に、大きな鏡(いしこりどめのみことが作ったやたの鏡)を岩戸の前に置き、力の強い天手力男命(たちからのおのみこと)が岩戸の陰に隠れました。最後に、天宇受売命(あめのうずめのみこと)が大きな樽の上でおもしろおかしく裸踊りをしました。この踊りが見ていた神々に大受けし、盛り上がって爆笑しました。あまりにもにぎやかになったので、天照大御神は気になりそっと隙間から外をごらんになった。

そのとき、布刀玉命(ふとだまのみこと)が八咫(やた)の鏡を岩戸の前に差し出した。鏡には、光り輝く女神が映りました。天照大御神は、それが鏡に映った自分の姿とは気づかず、さらに身を乗り出して隙間を空け、ごらんになろうとされたところを、控えていた天手力男命が手を取って引っ張り出した。そして世界に再び光が射すようになったと『古事記』に伝えられている。

### 助っ人清掃ボランティア募集!

金屋緑地公園を定期清掃していますが、落ち葉が多いこの時期は手不足です。藤グループは第2土曜日朝6時半から、老人会は毎月末朝10時から清掃しています。皆さん、マイほうき・マイ塵取りを持参して協力していただけませんか。